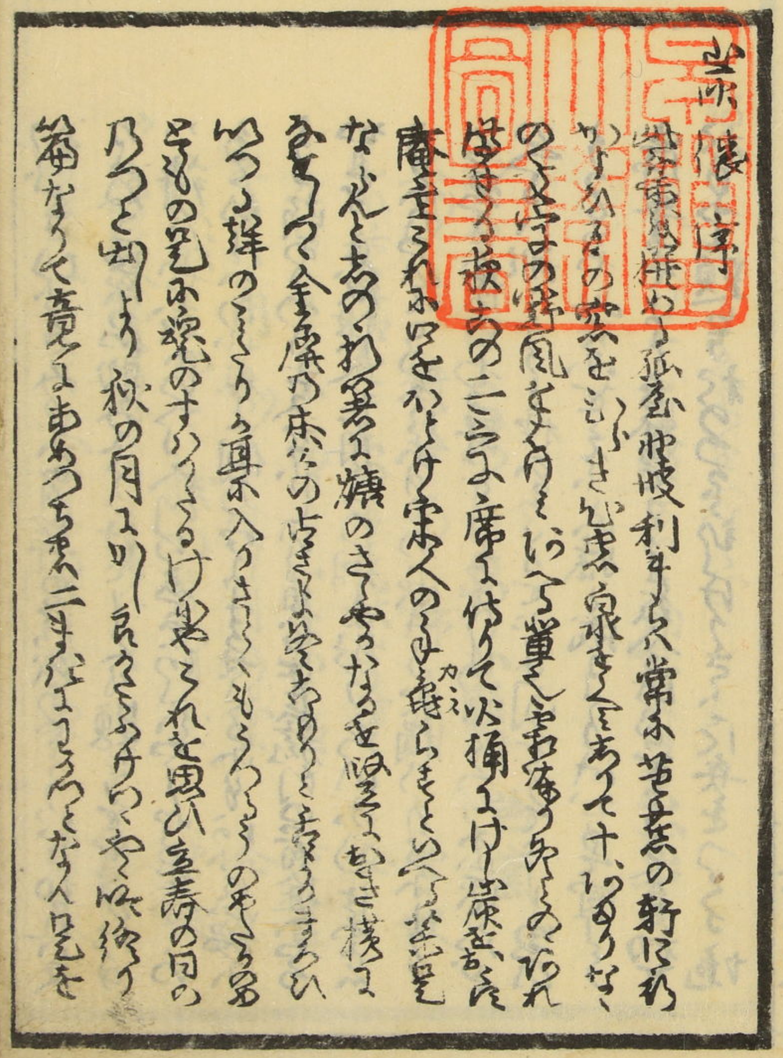
御湯七記 巻下

へ 5
4410
2

門 ヘ5
號 4410
卷 2

昭和九年
九月二五日
購求



芝所懐序

[illegible]

なんとあのわ[illegible]
[illegible]
いつゝ[illegible]
[illegible]
乃つゝ出より秋の月[illegible]
[illegible]

刻ふきひろきみちに宿驛の法残あやとりかさむれは文
りとねさ炭の助みえさりけるしくも題号をかきたゆす
ハ隣乃我にひくる大川の辺ハ、やよひの笑々の
多くひすハあいふ柳と倒乃雪よまする世をも、いのちは窮鶯に
ようの所あつる変なけれしひ一両芭蕉旅行の首途に
かまくら表紙換へて面をとの網を繋かるはにの俳諧
すみなれてこの冬よりの歌きり大櫃乃ありつかより
くろすき炭のふる舞まうちあしつるを、いつの出處ふと
せるハ訓しろうと撰者ちくろを小子聞なりてよと思ひ
さらさらや炭俵をえいふ嫌く成まつ此句を眞る
序書そよと言捨てつる、今此集をかくさる初
松の題号松のつゐけりきいたく炭をつくる境

ひのふしかしとくちをつくむ
元禄七乃年夏閏五月初三日素龍書

むめか香にのつと日の出る山路かな　芭蕉
處〻に雉子の啼たつ　野坡
家普請を春のてすきにとり付て　仝
上のたよりにあかる米の直　芭蕉
宵の内はらはらとせし月の雲　仝
藪越はなすあきのさひしき　野坡
ゥ
御頭へ菊もらはるゝめいわくさ　仝
娘を堅う人にあはせぬ　芭蕉

大ふうれいようひおうつふなる細蓑
あ〜〜八瓶のうちより　六月　北枝
飛けしうるこゝろ　ふるる雨の蓑　芭蕉
見こふ〜いの山　お袋のこゝろ　北枝
俗雪　尾の　持病をおさえる　芭蕉
あんみやく　ちりのくら谷月　北枝
大門ゝる素掛ゝ地蔵てゝ　芭蕉
素堂　おるに居合　ゆく春　北枝
町筋のつゝうと　掛て　花の後　芭蕉
門ゝく　押らく　ふるの　金解　今
赤風〜　小紫のいきれを吹まし　北枝
あ〜寒〜ふ　晩　うりら

江戸の左右むら男の亭主ぶれ　芭蕉
右地ゆもいれとうゝ　北枝
方〜ふ十夜の内のうねのまる　芭蕉
桐乃　月さゝりなり　北枝
門ゝあてゝ　それゝる而ゝ　芭蕉
ひらふさ　金て　表　久　北枝
大乃　辛ふ　女房のおと　芭蕉
又　ふのまゝ　岩　牢人　北枝
法市の湯法　芭蕉
なゝ　ひゝて　芭蕉
ゝの赤を赤の方ふ　北枝
魚ゝ　喰ふ　芭蕉

[illegible]　一株[illegible]　　[illegible]　　芭蕉
[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]　　芭蕉

三吟

兼好も蓮歌うけう　花さかり　　嵐雪
[illegible]　　[illegible]　　利牛
[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]　　嵐雪
[illegible]　　[illegible]　　利牛
早稲も　晩稲　[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　嵐雪
[illegible]　　利牛
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　嵐雪
[illegible]　　利牛
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　嵐雪
[illegible]　　利牛
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　嵐雪
[illegible]　　利牛
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　嵐雪
[illegible]　　利牛
[illegible]　　[illegible]

嵐雪
利牛
秋坡

嵐雪
利牛
秋坡

嵐雪
利牛
秋坡

嵐雪
利牛
秋坡

嵐雪
利牛
秋坡

嵐雪
利牛
秋坡

孤屋
哲蕉
嵐雪
利牛

寝所に誰もねぬ夜の有明　芭蕉

ウ

そろりと擬れ　さわぐ秋風　孤屋

きりぎりす薪の下より鳴出して　利牛

晩の仕事の工夫するなり　岱水

妹をよい所から もらひける　孤屋

後影見送る人も文を書　芭蕉

風細う夜明がらすの啼わたり　岱水

家のなかまで 跡を見に行　利牛

鰹汁けさの若菜をかへりて　芭蕉

家衣帯を させて 寝たれば　孤屋

木乃葉ふる中に 花を静也　利牛

かいどう柳 今は おしみて　岱水

名

雪かれかゝるしらぬ新月　孤屋

娘こんに咲けて目おおき山居　芭蕉

不届な寝覚と申けるかなる　岱水

まつち侍うまし上之おりを　利牛

祷りの 仙人の小家に 傍ち雪　芭蕉

品くまぐまれおる 色り傍を 取める　孤屋

風のあはれにきゝくんでそれは活気　利牛

家然々 とふりて 持る 炉も　岱水

今は冬 雪かり 年を老ぬる　孤屋

年寄さんちんからのかける　芭蕉

良いか 火の 国文の 売しるの寝ざめ　岱水

塩泉なれば 七夕 すむ 暇かり　利牛

名月のまに合せ度芋畑　芭蕉

をさくのみそ宿の家の鮎　孤屋

ウ

あれこれハ宿の通りをとらまきし　利牛

山の根際の鉦かすかなり　岱水

よこ雲にそよ〳〵風の吹出して　孤屋

晒の上にひばり囀る　利牛

花見にと女子ばかりがつれ立て　芭蕉

余乃くさなしに菫たんほゝ　岱水

百韻

子ハ裸父ハてゝれで早苗舩　利牛

岸のいばらの真白にさく　野坡

腕まくり珠数色縫の時出して　孤屋

よか町よりむかふ西かは　利牛

竿竹に茶盆乃ぶらつくりかせ　野坡

するの静まりてつれなく人の留守　孤屋

暮乃月二十日斗乃茄子汁するてし　利牛

揮ハ跡から櫃ちぎれあり　野坡

ウ

おろぬきの中によき程のぼれなり　孤屋

坊さまになまちと安らう仁平次　利牛

松坂や矢川へよけて通る　野坡

吹かぬ脇も借し父関打　孤屋

十二人の衣装乃寺をかひ　利牛

本堂そつと利いまだにくく　野坡

日乃あくる方ハあけ行の道 孤忘
以寺森の下口まで くれ 利牛
近江路乃うしろ潟を書初て 蛇皮
伏見の里上 三ハ月乃照 孤忘
生るから東ニ斗込むひしと清 利牛
様乃実名ある名根くさらさく 蛇皮
常夏乃露乃連すゑ花くもり 孤忘
此彩 但ある乃人のそバ近く 利牛
わするゝと二見文乃のかれ也 蛇皮
ほろく あくの緒ハうらみて 孤忘
なれ相ま於門でつまるゝ鶯ひ 利牛
雜羽乃象もまたつたゝ縁 蛇皮

隅ノ来西ニ武士乃暑のつゆひ 孤忘
尚きれよより今乃見ゆ大旱（テリ） 利牛
切堤の喰倒しころ稼さると 蛇皮
くさら納るを仕込廣庭 孤忘
竈日をまきしらせしも侍るあ 利牛
厳てもみする不揃乃寒さき 蛇皮
冲まあひもかぬを印がけは嫁らう 孤忘
豈より乃蕃乃遠き許のある 利牛
金毛乃屑 様ゆ質素ある古極 蛇皮
すいまし乃ちからやまる出ちゝ 孤忘
多
沙河花をつきる幽もきよる峰云ふ 利牛
戸てかうくハ己し名風流の名根 蛇皮

代遠く桂と檜とすれわひて
高し小宮八わさとしき内
宮まて八宿は男の宮かゑ
師光は五尾の風乃宮まて
麻稿 白 ゐを年ゝ笑ゐて
て滿の城を又高きけり
廣神を八ひらく飛の石
ひゝ起まして第る觀音
燃高きる鶴を屋根にて
十四人表のゐゐ手ゐまる
月花小かき河ゐ城の跡ゐ
張女面 海雲 ゐ稲

孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香

二 機嫌能小ゐ度乳ゐ
小屋此ゐ家 稀なり
撮ゐ時ゐ時ゐ家出て
稿乃濤ゐを会入て見ゐ
変畑乃蜀椒ゐ濤ゐ傍ゐ
高ゐ山ゐ形 改の華
物毎ゐ濤ゐ家ゐ
又此濤ゐ
改 ゐ ゐ
ゐ ゐ ゐ
濤ゐ乃ゐ初ゐ
一つゐ 雲 稿

孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香 利牛 孤香

銘さしあ蔵川ちまる新宮月　飛坡
なるもすきまこるる雲乃堀ぢに　利牛
長めを縫くを手紙の時る鶏愛　孤屋
又ちしこまして美味こうの匂く　飛坡
かくきしたく中乃花の見をまうと　利牛
入来る人の味噌室をおき　孤屋
ちちうひる赤湯拾乃、秋四門　飛坡
内の果金ひの見ゆる窟乃ちつま　利牛
ひやくくとをんと呼ぶくを雨ち極　孤屋
若の葉り鶏まいく　独汁　飛坡
花の内引鉢て振る松原　利牛
尾脇ホ仕る返り咲うく　孤屋

おちかる　もく四乃　晒のこ　飛坡
へ来ぬく　月の　六月　利牛
武三さくかよの数居沙くこ　孤屋
歳へはちる　河くく　かひ　飛坡
大あのあはるかのりて　利牛
何年ノ暮隠ちまぬ　孤屋
数金ちう弓月のあくど　飛坡
九れ十日　鶏を　しんこらふ　利牛
投行もくく　三まるホ多いこ　孤屋
ちすしこ金船ちう　俗ホ多　飛坡
里くあまを　頭　行川のよ　利牛
やくちうの　成　嫁の　孤屋

気にかゝる節句前の曉を揃 野坡
うむしる果る八専乃そら 利牛
丁寧に仕立る俵の口かゝり 孤屋
頭ら染て去年の跡の餅 野坡
夕月に露おく人の窓の花咲そつ 利牛
泣て帰る雛のやさしもおかし 孤屋
宮地をふり葉に風に欲ありく 野坡
めいやいつになしねよふ之 利牛
暑病の殊古月をさるう 孤屋
幾月ふりて古井の普請 野坡
城もち男願済のたのもしぶ 利牛
門迄来ても断の相談 孤屋

此草乃辛乃花の咲出て
三人かゝりかりわ支考 野坡
執筆

春之部

発句

春

蓬莱にきかばや伊勢の初便 芭蕉
東雲やまゆに和らつき時きよ松 濁子
みあらのくろけ会我人公家の春 杉風
春や谷水の田畑乃麻も待まて 京 去来
いそしきまたはつきそかしまひすまのう 膳所 正秀
啓もまや東居ろ處やひの松の 洒堂
岱山

雅いきるも門徒坊主のお経かな　沾圃
閑もよけも中乃洞や東大寺　孤舟
初日影赤燕子うつまれしくや　利牛
千年よる観世音名てゑる正堂なり　野坡

梅

梅一本つまらく草乃座の原　露沾
むめ咲や白の牧女のよき酒かな　幽窗
むかしから香ぞ始まり竹の杖初見ハ　支考
宵の口ちらを見むろみて
やかんちるや象ならぬ光の見乃包ひ　士芳
梅咲く湯茶の服れたを見　利牛
京みその口を以てぞ此一本の花　遊刀

みるくに咲そろひぬと梅の花　野坡
紅梅ハ娘をそだてる妻戸かな　杉風
ものゝ七くさむらを出て
ちまつるも手くるゝ数かな　其角
七くさや雑ハあゝりて切きさむ　洒堂
うちむれて若菜摘まず蒔かかし　仙以
涼月の文のかしら
朧月一足はくれてゆきかな　太丈
大きなや蝶乃留て又朧月　文鳥
おぼろ月よさしかゝる夜かな　仙化
深川の合あり
古池の残ても二ケ一　利牛

十六日夕月の時雨の古寺霞　嵐之乃
[illegible]　此城　其角

[illegible]

雪

うゝくひまつかぜ　嵐雪
雪ふる葉ゝ人雄の定　其角
うゝくひもの哉ゝ起行　桃隠
雪や　門無くゝまゝ豆腐屋　班城
雪ゝくひもの一茶も金を除ク　利牛

樹

おのゝうを見へ下ル神ゝ　柳春
陰ゝ　一尾のかたひらも　柳水

人人ゝ雪ゝゝゝて雪ゝる　夜城
ときれぬうゝ尾ゝ見ゆる　一風
町ゝゝゝゝたゝる　宿ゝ　利牛
傘ゝ　押ゝゝ見ゝる　芭蕉

椿

土ゝゝゝ椿ゝゝゝ　孤丘
枝ゝゝ　椿ゝ　湖玉
会入ゝゝ　椿ゝ　四望
椿ゝゝゝ　椿ゝ　岱吉
鳥ゝゝ　椿ゝ　支考
ゝゝ　椿ゝ　雪城

花

白菊　杉風
文華

素堂
玄森
孤屋
荊口
斜嶺

柿乃葉　水枝
牡丹　桃雲
行さんとする　其角
花火　嵐雪
むさゝゝ　月
老僧　乙孝
清水　車
山鶯　花車
罠布　雪舟
ぢつつき　利牛
わかゝる　全
知らぬ　孤屋
ぢいぢ　桃吸

食の時つゝみ　山桜　仝

上巳

芳野川乃なかれて汝ぞ　佐徳
春の水　桃園
登船水　其角
かつらぎの神もさぞ　如行
鬼のつゝみ　蛙
月出を待てゝ　蛙
麻の種　利牛
穀雨や　狐屋
貴郷乃　色蓑
影初て
蛙　仝

今年　小ぶ　有

蓬の葉つゝみ　西蓮
長閑さ　子珊
ほそくとあみ焼　沼波
鳥乃行　猿雉
気おくれ　仙華
蘭乃　
蛙　
法度　蛙
此年　
ひく　
要　蛙
春　利牛
庚　建常

[illegible]

可畑　漢川　孤冊　青洗　[illegible]　楊川　芭蕉　北枝　楚常　字路　元之

夏部之發句

夏

[illegible]　尚雪
[illegible]　無城
[illegible]　九節
[illegible]　雪芝
[illegible]　子珊
[illegible]　利牛

[illegible]　芭蕉
[illegible]　太朱

[illegible]

許六　支考

[illegible]

船主　素堂

[illegible]

芭蕉

[illegible]

桃隣　其角

[illegible]

嵐雪

[illegible]

杉風

[illegible]

芭蕉

[illegible]

素堂　利牛　北枝

[illegible]

荆口　千川　許六

[illegible]

利牛　北枝

[illegible]

薄風や切ゝかる懸乃ちあれまく　岱水

端午

みゝ雨や傘ゝ付る小人形　其角

さゝ不ゝてみゝやさうぶの風の色　洒堂

みゝ雨やてゝかぬるあやめ哉　桃隠

夫も名ゝ〜ぼうゝ〜粽入　嵐雪

ゝ雨のやゝ黄ばむ屋ゝ甲かな　仙花

情なの乃下ぬき捨る　捨ゝ　素祇

夏　旅

笠松をみゝけて町乃はづれ　臥高

枯ゝ本ゝ夏見のつゝ見のまめ　斜嶺

二三羽鶴八時ゝもあり寂ゝ　魯町

たゝげ出ゝ力乃ゝ見ゝ見ゝ見ゝ　猿蓑

猪の鳴や花ゝ見ゝ笠ゝ見ゝ　芭蕉

山乃月八海ゝ乃ゝ夜ゝ

五月雨

さみゝだれやゝゝ人ゝ乗る九ゝ木ゝ　素祇

みゝ雨乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ川　大和川　桃隠

さゝゝゝれゝ小舟をゝゝゝゝ　肥後

みゝ雨や水の茅ゝ蘭　嵐蘭

みゝ白八桃隠ゝ出ゝ　岱水

涼

川中ゝ根ゝ乃ゝ乃ゝ　芭蕉

月新よう〳〵百まやをのぶる
涼さ堺よまうる竹の枝
秋蛍を志のてらしをる 涼〳〵
清風八すゝ〳〵て涼し 六位の蔵人
すゝしさを志ること 敏の宗
すゝしさや波洲共 しかさとと人
夕まゝみのあるき石ふのかりけり
三ヶ月の湯ゝてすひ長ゝぬ

題志ゝ

橋や宮柳の あり〳〵ゝ
賢斗むゝや秋葉をしき清
世の中や年貢鳥ゝけしの花

女の東 対七 探芝
智月 凡峯
去来
飛波
素堂
杉風
正秀
里東

あゝ女ふゝうゝ 菜 吸ふ 嵐雪

朱雀院

山吹も巳ゝ生る 田植うゝ
ひゝ〳〵日や 雨降りさゝぬ 花の糸
さゝ山や人ゝ すきあ原 牛ゝ
晩のゝをさ おさ松よ 七千の花
雨乙の雨ゝ 雨のうゝや かゝりゝふ
堂〳〵 雨 あ 蕉

一ゝきゝれ 妹もうゝけゝ うゝ原
なうかゝる 蝉うゝ 蔦を 来ゝ
猪乃牙ふ ゝかゝる 加ゝ
関ゝ東 竹 町の 出川さゝ

汗六 智月 北鯉 乙州
太艸 仙花 楚舟 残香 芳 雑有
怒風

けうこさく八幡の栖や雪の暮　祐甫

一枝をすけうるき竹のうゝ八　仙花

竹のよや四九の葉くまのゝ長夜　嵐雪

さうこさく人僕う酒をゝしむ夜かな

戒めうるゆえ泳せゝしむるゝ

今ホトトギスとなくうくかてけきあくる

なゝとなくのゝかまくを出てあゝせれ

けうとハ行をうきと

改て酒よゝ石乃　ぼくあつきうな　利牛

わゝくの別墅さいきうれあハ春雨ゝ

千文つゝ刈のうゝ成なるゝ

ゝをねてあて見るやうゝ　松坡

秋之部

名月

名月や四方ゝ屋ゝ居ゝ歩へき　湖春

名月ゝ　樹ゝ　まゝ　森の塵　去来

宗雲ゝゝ　ゝ　月ゝ　荷分

名月ゝ　浮世　森乃　地　西堂

松陰や　船　揚　月見　里東

のちゝの松ゝ　ゝ月ひゝきよ　ゝ月　利牛

宗ゝ　ゝ　ゝ　後の月　其角

ひゝきの仲秋の月ゝ見る

望峯不盡筑波と

明ゝや名ゝ二見ゆる　うゝ淺草町　素龍

竹のにゝれの夏ゝくの中ゝ
月を通て竹俳の字ゝ

七夕

笹の葉さらさら軒端にゆれて　其角
星合ふかぬ夜の露　孤屋
七夕やうつくしうする天の川　嵐雪

盃葉盃

とりきりの一かけうつす水や哉　洒堂
踊りつかれて人さわがしく寄る月　李由
寄る月窓ふくまで門をたたまうら　北枝

朝顔

関関
朝ゆうや昼は寂かろ花の宿　芭蕉
ねるうりや日傭出て行あとの宿　利合

てらかるくと鶏鳴くまで　柳糸　湖春

秋　歌

年よれば寝ぬ夜もなるを哀りくも　大津　智月
惜りよ人のたきれやきりくす　文仲
蝙蝠ゆ人のたきれやきりくす　有
くくろまやの蕎麦遠ゆる猫乃上　孤屋

歳

友孫の俳を見うる小雀ル　車来
人のうとよりうて
孫乃ゆ　旅や　鄙乃　素龍
旅行のくき
きれ　鶏や　すりかふうる庵の七　土芳

草花

宮様御乃萩や薄より秋の花　桃隣

花さくまゝにへちまの村しくれ　沾幸

尾花乃萩や刈穂 鶉の聲　猿雖

芦のみや白粉猫子 菱あるゝ
あさくて嫁るそ　丈艸

芦の穂にいろいろあれ 宮の庭　去来

山中や菊花を見て
萩あや鼻乃先なる嵐かな　其角

園菊

菊畑に匂ふ貢の人ありて　松風

網菊もさく嵯峨乃白ら菊　桃隣

秋掻物

掃はあるな庭 みいりの葉ならなら　利牛

落葉や山なりの蟹の甲　旅寝

秋風や鶉の聲乃かのしかな　木白

笹の葉干て空もとおく鉢の瓢　狐屋

是うそ儀しの名を南とんひかしと云ふハ
かくれ法世南とんゆそひさしけしハ愈
鹿持ちハき天のちさきそくハかなる
なきなくハなのかくちくとめなる人よ
あそれまいて行くるその手ゝる窓し
かふねを自ハ波の山まれ竹の宿となれハ
天資自然の理さらく眼をふくての外

鶴をくらて近衛家の世の鳶を仰ぐ縁の
うつりかへにわたりかくの往来し手もすみ
すりそちのかれをたぬけのうち人日を見え
やねのそうれ一階乃つま物りの外ほを
たのをうなまめかしくみ代々を縁の
あきたるひまやされくも出入人かへ
いたのうちの縁のまゝあけかりつれ
てもいふ杉の川をつきみちをかり
家食事を集乃おまふへる紫をれかたへ
守る真延の山紅葉の色を図にある
其頂上をそうかくいて下のる人行
めぐての帰るさよみの外の里をは

ありける一両人をこそなかれちりちりくと
いふつみけりし世にやを母もまくらの光へ
昼もやらす平生の床にふしたりし今宵
人々を出世をきりつれたりし光葉
あのむかへにふしきよおみきとらんとを

小序を志のぶに

石菖を植すて根ざしを萌せし　杉風

題しらず

お襟なかなかや秋乃から汁めきき　嵐雪
み風呂の中や家山子の男の役　丈艸
堪ひとりよき淋しきの句ひのを　洒堂
秋のくれいよいよくらくなる鳥かな　荷兮

茸狩や茨の蕈も見は婦ぬ色　利合

夕皃の汁は秋しる夜寒かな　文考

くる秋は風ばかりでもなかりけり　北枝

あき風に蝶やあふなき池の上　依々

庖丁の片袖くらし月の雲　其角

冬之部

初冬

凩や沖よりさむき山のきれ　其角

市中や木の葉もおちず楼の嵐　桃隣

冬枯の磯に今朝見るとさかかな　芭蕉

襖にも紙張まで冬の夕　支梁

鶴の巣のきれ行冬や小松原　斜嶺

刈麦の跡のまばらむ若葉かな　桐実

嵐の藪によする小家かな　銭香

初霜や猫の毛も立台所　楚角

凩や聆あけき椿の雨　八桑

南宮山に詣て

木枯の根にすがり付檜皮かな　桃隣

笛竿に手寒き猿猴のさむさかな　遊力

時雨

草の戸は腹へらしけり初時雨　荊口

黒くなり沖の時雨の行ところ　丈艸

芭蕉葉は何になれとや時雨かな

もらぬ外に今日は晴る奈良の宿　斜嶺

在明となれば霧しめるまま　許六

旅ねのあるじ　此筋

水釈迦堂ようの白い秋やうぬ　此筋

大根引とりのあるうき

鞍壺ゆ小ふ坊を乗るや大根引　芭蕉

鉾ゆまたをさとまたをたを大根引　此筋

郭遊の筋さる　宵の去大根　洒堂

さむさをりのあるとすて

人賀の秋はいよ成長るさむさ　此筋

あの時先挨拶はこもむさ　示墻

苔なる切の明ものなきさむさ　利牛

足のうらあつけて中ーゆの月　秋眉

魚市や迄うちーてみる月　里東

名の二月八ろの川の名くもうれ比

他むろの秋いとしふるとそ

今ろあるとの四ろ

雪

ちろちろりこのうるおて寒ろう　成

初ろあるの見くるのゆうの曙ーら　利牛

ちろいきゆ城乃雨の茅ーた上　貫山

雪乃日ふ庵僧ゆそ時雨　依之

ろあれ見やうくのろ比柄　猿雖

冬の秋時ろちるーて

杉のさま乃こゝろかなう歌の道
某の翁や流世へてこゝろの宿の花
さゝ雪や先一ゝやゝ消さしゝ　支考
炭賣の横町さゝる　雪吹くゝ　小枝
海山乃ゝゝ峠ゝゝ　ゝ　洋六
ゝゝ乃ゝ巣や曲ゝ　ゝ　数久
　題不知　　ゝ　乙州
むすゝさ玄柏よゝ　ゝ　ふ彩
市ゝ井や粉糠乃かゝる　白の湯
淀川の景色俊ゝ十表　呂丸
川火焼のゝ色ゝ村のゝ　芭蕉
白ゝとの赤ゝきゝ　洋六
杉の雲　　智月
　　之道

猶のゝやゝゝ　文中
実中やゝゝ巨燈のゝ　残香
陸ゝ行ゝ　其角
海へ繰ゝ　公
　　芭蕉
焼ゝゝ己ゝ　方平
焼棒ゝゝ　蝶波
解ゝゝ　風雪
ゝ乃見ゝ　智月
侍ゝ　杉風
　歳暮
ゝゝゝ又ゝ一周ゝ

[illegible]　李由
[illegible]　谷月
[illegible]　孤屋
[illegible]　猿蓑
[illegible]　歌仙

[illegible]　素竹
[illegible]　仙去

誹諧秋之部

秋の空毛上の杉よたのれとも　其角
[illegible]　孤屋
[illegible]　全
月の[illegible]　其角
祖父[illegible]　全
[illegible]　孤屋
下京[illegible]　全
[illegible]　其角
[illegible]　孤屋
[illegible]　其角
田の畔[illegible]　孤屋
[illegible]　其角

行燈の引出しさかすはした銭　孤屋
顔に物着てうたゝねの月　其角
秋風に鯰の生簀ひとしほし　孤屋
僧乃下る筏やかゝれ　其角
野菜の梅は桂乃花のうち　孤屋
むかしのまゝのあのよ世て恋　其角
いさかひ隣か寺金乃借とひろ　仝
宮の鳥居にいつまでも　しき内　孤屋
文早ふくよさまで寺参り　其角
かびさとの人わ小僧めやかれ　孤屋
年は夏蜜柑乃皮も浸をて　其角
帯ときながら水風呂をまつ　孤屋

君まねくあてまで法事の客すき　其角
雑と陣の仁王門のつる鰐　孤屋
草履へ腰乃まゝ秋の空と　其角
水より冷る月乃雫かな　孤屋
紙燭して尋ねて来る酒の跡　其角
上洛の供のかへり　ほどく　かく　嫌　孤屋
小雨降るはいつ毎すせて病む　其角
けふもぬらく　隆縁乃花　孤屋
孤屋按摩り如来で涙のありりけ
今四句老涛して峰伝つ哀

天野氏興行

乃ちとり拾ひいろめて紅葉
しんとくの歌　　杜風　　桃隣
入日ふ紅葉ハ山のうと寺明て　　利牛
堀り外はまて　　桃隣
洞庭ようなるなりくんてつゝ　　此坡
はやふ時雨ふる　雨乃つゝやむ　　利牛
ロ
瓜の花ふまたうらあんかくはかる　　桃隣
近くふ居ちとさきさきぬ　　此坡
身ようふ兼ふ見れあまりか　　利牛
いろうさなハ　十月の枝ふ　　桃隣
長所けのハ寿葉ふ花ふて　　此坡
かふかふく　　嫁乃法会　　利牛

ヲ
ふ人なりふ細工ふ深ふ彫ふ
鎖持ふ　　桃郭
時なふ花ふ金俳ふ高ふ　　此坡
明ふ月ふ深ふ　　利牛
人乃鶴ふ弄ふて　　桃隣
ふ　　此坡
ヲ
ふ平の機ふ　　利牛
むふの花ふ　　桃隣
買ふ　　此坡
帰ふ　　利牛
ふ　　桃隣
雲の木ふ　　此坡
利牛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

肩癖ふかき陽炎の霞の糸
上ずきの千の葉初もみぢ人の
かぶる出見日人　閑て寄る
偽雲の　ちりぬるを育うれて
堀ふ　門めぐる人　十石　元
出雲雲陳　鬼もも捲月花
紗ふ暖の　うつる　青苔牛
新月乃　蕃もおちろく雲の上
映ふふ且てふ　笑ふふる　物
川越乃帯しめ　あを　の雲
平地の寺のうすき　歳　塩
干物を　日向乃　方へいさ　せ

利牛　利牛　利牛　利牛　利牛
牧牧　孤瓜　孤瓜　孤瓜　孤瓜
芭蕉　芭蕉　芭蕉　芭蕉　芭蕉
牧牧　牧牧　牧牧　牧牧　牧牧

時雨の　鴨乃　芭かくなる
笠ぬ月ふ　深世を　うる　京　孤瓜
又　沙汰す　ひ　ふ　ひ　芭蕉
ときくふ　ふ　ふ　月も　雪の　ね　牧牧
ふ筆ふ　ち　む　ち　ぬ　ち　孤瓜
中ふ　て　侍　軍合の　侍　ふ　利牛
ふ　ふ　ふ　ふ　ぬ　ふ　牧牧
風やて　秋　秋の　時乃　屋さう　芭蕉
鯉の　の　の　の　偽を　ふ　利牛
ちふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　孤瓜
ちふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　芭蕉
同星　ま　の　の　の　の　牧牧
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　孤瓜

梅雨のちくさくらくまち風　利牛

雪乃雲おのれ白みれい尚寒し　移風

日乃出るまへ乃あき空　孤屋

ひ光を一永濱み初明て　芭蕉

あつさ　ときく大　行乃　子珊

分入あらし風もふり　芳り秋　把濱

雲をのこまてひろき　富地　利牛

鉄　蕉乃　悦きれしり　移れ　盛水

第ちこらくて　雑蕉雲く　如坡

二三蕉　窟所もぬ門の　子珊

ろ乃蕉物のよろ　干もち　治国

竹ぶ度ぶ雨ふ初人ふ文の朱て　石菓

稲よふ乃さ　さ　雨のさ　杉風

よお者乃一人も見ぬ浦の秋　廿坡

めつさは風の　さ　重と　利合

青くの月をとちて　藤大立　依く

脊中へのり　四をうゆる　桃濱

脊中のの　ふのきろ上ふちて　子珊

川ふ　ふ小鮎　いふ千る　石菓

名

れ帰ろれて気味き浮ふの変　杉風

脊戸へまろ　ふへ　行みち　盛水

物思ひ　ふ　雑ぬ　月　孤屋

光葉め　て　おりき　精迷白　芳良

隣家を橋で後へ通り込
つまり〳〵つまて　其代の袴
をあらためて　なく〳〵月雪花と
とまり人れて　少をとりて　なる
又けさも　併の人をて　情を明
扶さうして　昨と　如かまり
大坂の人ふすれる　みの月
酒をとまれを　祖母の気入
さけ　わるけれの　隣のとかり
次乃小沼屋て　ほかゆもる　変
約束みりみて　屋まへ　松琴
吉乃　うねか　なる　紙　屋来る

桃隣　依く　伯圃　子珊　利牛　杉風　利合　拙城　子珊　利牛　芭蕉　杉風

花乃雨　降つゝそよ　関東　海道て
男もすり　ふり　遊　をつゆ　秋

春水満四澤の気色哉

川柳　山もうとう　栄　ふい　山店
さ　柳の　浪　次　年　ふり　染つ　嵐竹
川　城　て　常　花　ふ　柳　く　伯水
源　鬼　か　人　た　う　ま　柳　く　可長
さ　柳　て　さ　ま　ま　ま　ま　ま　史邦
ち　ま　か　て　く　ま　ま　ま　ま　里倫
さ　柳　よ　吹　む　さ　わ　さ　ま　去来
つ　の　ま　る　風　か　ら　ま　ま　白良
華　と　や　逃　ち　物　の　む　さ　う　史邦

桃隣　伯圃

芳野

[illegible]　芭蕉
[illegible]　山店
[illegible]　去来
[illegible]　洞水
[illegible]　芭蕉
[illegible]　山店

三月晦日

赤猫のうつくしさ[illegible]　山店
[illegible]　史邦
山風[illegible]　嵐竹

阿羅野

尾張遠江橿木屋夫人[illegible]を偏く名き
[illegible]

元禄二年　弥生　芭蕉　桃青

花三十句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

負室　路通
信徳　晨風
友五　尚白
去来　野水
亀羽　越人

下ノ三十四

[illegible]

一井　後以
嵐草　舟泉
胡及　長虹
卜枝　鴉歩
荷兮　今下
李芝　北つ

心苗
[illegible]人
[illegible]あ
冬松
冬文
荷分
芭蕉
仝

[illegible]

仝

下ノ三十五

[illegible]の[illegible]の[illegible]月[illegible]
[illegible]八[illegible]
[illegible]
[illegible]

海あり

ほゝゑみて十月もさやき花咲

時しもや森入ぬ先のかゝまれ　風泉

わふなりや　今紀て哭く　時雨　杏雨

くらゐやかうまつきほゝゑき　今下

ものと馬よきゝ合ひのかゝ　金

たゝみ明ひの月まゝあるゝらかゝ　鈍可

きゝふゝとゆくきくゝ人ゝるゝ　ほゝゑ　大体智月

ゝゝゝとゝゝ雪おゝう　時ゝゝ　季桃

ゝゝゝと雪乃ゝをほゝゑ　市山

十七

月　三十七

ゆゝゝくゝと無ゝ人ゝ月　花ゝ　梅舌

抜れゝゝも月ゝ中の稲ゝ　海水

月ひゝゝゝゝゝゝの今雪ゝ　一雪

雨の月ゝゝゝなの梅ゝゝ　故人

けゝゝゝゝゝゝゝ月ゝ　昌碧

ゝつゝの貫ゝきれき月の影　市柳

ゝゝけゝかゝて　一髪

ゝゝゝゝ月の中ゝ　長虹

ゝゝゝゝ月の中ゝ　任他

沐まて　亀洞

一ッ石ゝ　故人

名月ゝ　文鱗

名月ゝゝ十二ゝゝ　昌碧

名月ゝゝゝたゝ　船

名月や敵乃吉と犬の声　今下
名月や見るものとおもふて人の月　二水
見るものとおもふて人の月　北枝

名月のむかのそまきか

いつくとも月を見る目に水焼ヒ　荷分
いつの月も嶮をつたれてなれし　仝
名月や海もおもかをのせて　杏来
名月やひとりとまれとまねきき　胡及
名月ハあるときもとふね　為方
雲に見て一榜ふさひ月の舟　一髪
新ふさ秋ふね程見る月おかし　松風
春のふね月のもれもなく海の果　荷分

十三夜
朔日

二日　見る人もみちなき　月のタ小　仝
三日　いなのうたさてゆく　似と三日の月　芭蕉
四日　夕月秋ひんけしてちりくむ　卜枝
五日　伊月ゝも見さくめるや宵の月　一泉
六日　根川月ふとゝや　月のかゝ　雀声
七日　能やふふ生て伊る月ハ　一髪

雪二十句

大はさて
雪ハ月や　船ハ月の　新ハ月
いさりむ　雪見ふ　所ハ
竹の雪　為て　秋ハ
かさ　あ　や　ふ　ハ　ふ　ハ

其角
芭蕉
塵交
京加生

車ゝ雪をきやけ[illegible]

[illegible]雪成見そうふ須をけ[illegible]

[illegible]雪ふ戸明ぬ間う雪庵ふ

めのうけのふるぬも雪の訪くふ

人ゝをき歩ゝ物信見さう雪の便

雪降ゝ[illegible]

歌の雪[illegible]

いきの日や川[illegible]

初雪や[illegible]

雪の[illegible]

雪は新[illegible]

雪乃暮[illegible]

小春　城人
見章
松芳
二水
鬼仙
除風
暦汀
午下
芳川
冬文
桂夕

ちゝ[illegible]

[illegible]

はつ[illegible]年

船[illegible]

歳旦

二月ふもぬ[illegible]

[illegible]

つ[illegible]

雲[illegible]

[illegible]

月雪[illegible]

かさ[illegible]

荷子
路通
秋色
芳川

芭蕉
歌
古梵
風路
其角
文鱗
太来
一晶

元和やなかとなりけれど生まれぶ　嶋通
元貞八明まるあしさるかすゝ　一笑
嶋国より梅の花ゝむ匂ふ　如行
ふるう社老まつはゝとぬとゝ花芸　蓼橋
ふるあをうちうけて見よ雪の梅　丙
伊勢浦や山茶一株ひ花の色
あとふきの名をつけて見む宮の梅　昌碧
太年のまちのきゝ〳〵竿の梅　元廣
小林ゝ栗やひろゝむまのの色　舟泉
ゝ男　ゝ枝葉をあひけり　仝
山紫ゝうゝ留まる電ゝ　重五
松ゝ〳〵引ゝ待ゝ年ゝと　釣雪

下ノ三十九

月花乃初七賀屋の冬ゝ
連そまてゝゝ冬ゝ　万葉集
ゝゝ冬ゝゝゝ作の百公　一井
見れとゝ山ゝ彩ゝの年の海　明及
ゝ起て縄ゝ　柳小　氏紅
ゝ那ゝゝの雨ゝ　義題
逆茂ゝ舟の盛の冬ゝ　仝
佛ゝ祇ゝ舟の盛の冬ゝ　端水
の官ゝ　京　とゝ
ゝゝ　朴什
ゝ国ゝ　冬文
正月の奥の冬ゝ　仝下
人勢の春　家ゝ　冬松

[illegible]　柳風
大根ハ去年乃青葉の白ひか　防川
雪の枝咲ます　年おとと　昌勝
年ゝ山嵐ハ　文吉
[illegible]　夕乃
[illegible]　梅舌
[illegible]　北色
[illegible]　仝
[illegible]　旅人
[illegible]　仝
[illegible]　荷子
[illegible]　仝
[illegible]　仝

秋八月　月ふる　ふる　ふる　

[illegible]　　梧一髪
梅ばかりの[illegible]　　冬松
[illegible]　　蕉笠
[illegible]

[illegible]
雪の[illegible]　　芭蕉
[illegible]　　若風
[illegible]　　去来
[illegible]　　相笑
[illegible]　　市柳
[illegible]

[illegible]　　梅舌
[illegible]　　塵交
[illegible]　　冬文
[illegible]　　芭蕉
[illegible]　　今下
[illegible]　　路通
[illegible]　　荷兮
[illegible]　　舟泉
[illegible]　　今下

椿
仝
春雨
仝

曉の雨霧よりいつそ花の
蔭ゆく蓮もの陰の
そゝる風いとすゝ
まの雨雲ともせ　いなく蔭よ

向尾麿

世の
寄生
亀助
舟泉
其角
芭蕉
陰車

荷兮
卜枝
湯水
嵐雪

川べあや多成の人てつひつゝ
はりくーー頂中ホあまるひとり
蛍高は美人楽我を花世界ホ蛍とあるかと

冬文
青江

素堂
北水
成人
一笑
小春
一笑
昌碧
春雨
此橋

蛍ホ　鵜なり　能名世みゆ　御陰
風の吹方ぞうちの　術ゝ有
物のもたなりくゝ　ゝ
きゝ　郷さ　ゝ
尺とうたやゝ　ぬる
すれ　ゝ　風ホ
とゝ　ゝ代を　術る
ゝ　ゝ　琴の　柳ホ
ゝ　ゝて　陰ホ

吹風に牛ひきもどしてやすらふ　杏雨
吹風に春のさとりの柳哉　松芳
風ふるゝ見ハてさとりの柳哉　校遊
春くれぬ野辺をさとりぬ柳哉　持子
鶯鳴ゆ〻しくさとりて月の柳哉　仝
青柳にめとれて通る車哉　素秋
引いきに後へ戻るやうに見る　鳴歩
春の夕べつゝまれしかも梅の香　生林

仲春

麦の葉に菜の花もうる岸哉　不海
菅の笠や移る葉のちるの中へ　長紅
なの花乃中愛ふうる日哉　仝下

葉乃長ふ枝ふ明るうちのこれ哉　清水
うゝゝゝもの炉のうの雛なる　去来
万歳を仕舞のてゝる田哉　目碧
つゝきさそわるゝさゝ哉　城人
春の水世に一本徳しきれる哉　矢中
春の水人葉に咲てゝる　除風
ほろ〻くゆ〻ハわるゝ　一橋
うゝろ〻ゝ見ぬ涙の橋哉　冬松
さゝゝゝと山ぶくれ人春きゝ　一髪
ちるの春よちゝゝゝ雪井哉　世水
あの木の春に屋辺のゝ春哉　除風
春ふるのつゝをあるひゝ持ゝれ　一雪

[illegible]

後車　宗鑑
[illegible]　[illegible]
[illegible]　去来
[illegible]　落梧
[illegible]　桑下
[illegible]　一井
[illegible]　柳風
[illegible]　梅餅
[illegible]　吹玉
[illegible]　百歳

暮春

[illegible]　忠知
[illegible]　荷兮
[illegible]　舟泉
[illegible]　路歩
[illegible]　焔遊
[illegible]　杜国
[illegible]　大阪　式之
[illegible]　芭蕉
[illegible]　[illegible]
[illegible]　卜枝

一 [illegible] 岸のそくいの人々
[illegible] 岸のそくいのいろねに
[illegible] 蘭に
[illegible] 蘭に
[illegible] 蘭に
[illegible] 蘭の
[illegible] 蘭の
[illegible] 蘭の

そそぎの釣瓶くるるもうきぞ忘れ　荷兮

くく鳴くつゝみの火縄よりつゞる

繁り焼き寄るもひゝくゝ雲　芭蕉

山路にて

なつの来てもはの一ぱかな　一井

ひぐらしの鳴くこゑ聞くとゝ　杜国

椿の木のひくうるるいなかぶし　越人

ひるふのひゝ美やを見れば　不交

美濃のふるさとふかるものみれば　岐

ひりもなくその赤くのつゝ雲小　芳賀

ひゝくくとうつ美ますますかぼそ　西河

ゆゆしくく美濃見出かゆゝ　竹内

　　鉄可

さけ山やゝゆくみち沢和本　美久

上ケ方ゝのつの種にてまき一株　玄察

枯ゝ三ハまゝゝ見る夏草小　生林

変うつて葉の木ゝ紅ゝ　作不知

むきうふ赤ゝ黒ゝ　鉄可

赤ゝ茨の木ゝ蓼ゝ　嵐蓼

鳥ゝ鳥ゝ山なゝ月けしの一本小　落梧

けゝ蔵ゝ　李桃

大ぎ雨ゝ　東巡

茨ゝひり黒ゝ　吉次

　　嵐雪

滝川乃摩ゝ

滝の夜ゝ見ゝくゝなゝぬゝ

さゝ[illegible]

仲夏　野水

[illegible]

刈草[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八今にまるかき西ろ八　亀洞

岐阜にて

[illegible]ろうさ[illegible]しさそろる柳縄八　負室

同所にて

[illegible]ろうてやうてかのき柳舟八　芭蕉

[illegible]

[illegible]ふ蒲こわれて憐さなり　荷兮

[illegible]八熱も暑ん柳涼舟　越人

生ふ[illegible]我をうまハね柳舟八　淳兒

曲江小蒲冊乃尺くねうあねゑ　梅餅

鴨忠臣巣ぐろいつくろ柳　路通

柳生の郷を　[illegible]る夏柳八　卜枝

江の柳をろ[illegible]冊中の柳八　鉞可

蒲の[illegible]や　[illegible]ろ　宵の西　仝

柳よや蘇[illegible]女人をろ[illegible]ん　越人

冷[illegible]さや　灯のろ[illegible]夏の[illegible]　歳蕉

夏の柳や　[illegible]ろ[illegible]　四葉

唐[illegible]蒲ろた

[illegible]ろ[illegible]人[illegible]柴夏の炭俵　其角

夕[illegible]や　舟[illegible]ろ[illegible]の[illegible]　芭蕉

夕[illegible]の[illegible]八人のあ[illegible]　丈水

夕[illegible]八　[illegible]　僧雪

山路[illegible]夕[illegible]の[illegible]　市柳

名ハ夏もちまゝ文くわゝ似てゐわし　長虹

暮夏

柿もぎこくやうなり　蟬のこえ　恒穂

夕立に干人寸ゐうく　昌碧

きゝしきゝ　松ぬ　木法師　今下

涼しさよ白雨なるゝ　入日陰　去来

簾して涼しや宿のまゝ口　荷兮

雲の海てゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]や　[illegible]　[illegible]　卜枝
麻の[illegible]　[illegible]　李農
[illegible]　[illegible]　越人
[illegible]　[illegible]　素堂

初秋

ちらちらなや　麻ちらばるの花の風　越人
梧の葉やひらひらん妹の角　圓解

[illegible]　仙花
一葉ちるまちまちまちまちまちまち　方生
ちらばらばちらばらばちらばらば　杏雨
男くさき羽織を脱ぎ捨て夜[illegible]　芭蕉

[illegible]や　頃かたまりの[illegible]　文鮮
[illegible]　荷兮
[illegible]　公
[illegible]　陸奥
[illegible]　胡及
[illegible]　蘭潭
[illegible]　去来
[illegible]　昌長
[illegible]　鶯汀
[illegible]　一髪
[illegible]　素秋

なの乃雪ふハ猶ほのぬ波清さとうハ
いとうまやさのゆハ赤けよハ西
ふまれてもるなうらうらや紫の花
ひとろ〳〵と終密のけや女〳〵花
糊低るもそ〳〵ゆきあり き蒲菊ハ
草ゆり〳〵ゆ〳〵ゆるも芸ゆ〳〵ゆ芸ハ
ゆえきんと成鶯をゆ〳〵る紫ハ
行人や堀〳〵ゆ〳〵ん むゆ〳〵紫
宝蔵法師せゆをゆ〳〵ふとうて
ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ小草ゆ枝 蔵蔵ハ
ゆ〳〵〳〵ゆ〳〵ゆる根ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆきハ
作 秋

芭蕉
其角
舟泉
芭蕉
貸 作者知
任口
荷兮
胡及
素堂
俊秋

ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵

宗和

北枝

越人

防川

角笑

胡及

曉髓

其角

芭蕉

一笑

巴丈

昌碧

越人

曉髓

其角

仝

一水

かなくうて萬さく、ふあり佳景
淋しさ　櫃の実落る窪寺ふ　十閑
殘る花のことくちれ柳の花　芦
芦の穂やいかりすのく高くり数義　加生
初みゆ　路通
ひのくうちはさまるもさある例あり
ゆくさまるくふ　うりけ。　湖春
一筋まて三井寺うくく初雪あ　尚白
ちらしくれ　かはりしあ、まのゆ　滿水
万句奥ふ
見ぬうあ人のやとりの時あふ　荷兮
人数待うる日り

ゑ物ハ多ふそ〻ぎそり見る例あり
為かねの山陰のこゝちくれ水
時ゝ守すそりの雲ゆる付あり
たゝ〻ゝ水ふ　二日月のゆきちる
一葉ゝ　柿の葉ふゝる成山ゆ　落梧
赤の色素燒ふ佛き興発素　飲玉
枇杷のゆ人のうする　ゆ　千下
ゆ葉乃ゝゝ　荷兮
梨子のゆ　ゆくれ　一髪
葉虫のゆ　ゆ　ゆ
変まて奇葉なりし　李晨
のゝけやゆ　野水
昌碧
仝
一井

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嵐蹄
荷兮
長紅
一井
亮仙
金沾
炭
忠知
義仙
村陵

[illegible]

冬松

海嵐橋の無埋うたる氷室
炭窩の定さくやとゝ稀けり
燈籠夢覚ばかりと知るさゝ山さゝ
火よりて戎月よりぬ多結
いつてけし底知せぬ多ほき
み穴ぬりれまよりきん生ら

歳暮

解つきや肉うもれて酒ぶし
春出てよりぬ物ゝつ年寄
のち花の法ゝく掃つゝ帰ぬ
さる迎く葉梨
牡丹さへ極にさける蘇

利重
亀洞
生車
一笑
亀仙
芭蕉
李下
尚白
耿水
亀洞
一髪

[illegible]

柿の実 [illegible]

年月 [illegible] 柿の実 [illegible] 荷分

門巷をうつして 陰一若の人 内方

田舎の嵐遠く 花乃寒き代 亀洞

雑 年中行事十二月内

世界遠換自殺 [illegible] 荷分

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 梅白

春宋之伴 閑遊

[illegible] 留守のまゝ 僧仏

花下 [illegible] 閑夫宴

霞入 [illegible] 山き [illegible] 花の下

留春春不留春帰人寂寞

行雲 [illegible] 宮乃 [illegible] 守られ

[illegible] 風 [illegible] 寒復 [illegible]

繰 [illegible] 松 [illegible] 岡 [illegible]

池晩 蓮芳 [illegible]

[illegible] 行水 [illegible]

暑月 [illegible] 夏 [illegible] 宋 [illegible]

[illegible] 切 [illegible] 北の [illegible]

[illegible] 田時 [illegible] 吉 [illegible] 中 [illegible] 是秋天

[illegible] 春宋 [illegible] 雨後 [illegible] 彩

秋の酒 [illegible] 人もな

遠く鐘 [illegible] 初長 [illegible] 何 [illegible] 月

[illegible] 光 [illegible] 庵

[illegible] 月

[illegible] 秋 [illegible]

十月 [illegible] 天 [illegible] 秋 [illegible]

あるふしの　[illegible]

寂寞殿村夜殘庶雪中園

鐘ぬき出も　[illegible]

白髮秋後俳句

俳名乃　[illegible]　優懷　[illegible]

禪門乃　[illegible]

さびしさ　[illegible]

舟家

鋸鋸　自立付木屋

釣瓶　纜力

柳賣

馬糞掻

かけろふの　[illegible]

[illegible]　酒　[illegible]

[illegible]　[illegible]

ちるふしの　松乃　[illegible]

李支人　魂在何許香煙引到梵宮　越人

かけろふの　抱つ　[illegible]

揚雲　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

昭陽人　小頭難度紫衣裳青袋貶眉細毛

外人不異　庶矣

[illegible]

西施　宮中捨於嫁眉公不獻吾主是愛君

花ざかり　植久　牡丹

王昭君　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

一日四季　[illegible]

雪

卯　蟲やの数や山傳供燒火の煙
辰　樹生ん後出乃　まる日
日　蓮歌の眠りの法ふ家くた
午　あ行ひよ盛子上を踏ひとも
未　蟬乃きふ武家乃文食をふろ
申　ゆく〜雲や鶏さまる　ゆれ作

所ふ行のて生ぬ所の是非あく

樹水
児竹

山獣　麻笛雲　上る身殺ぼくひ毒おき　日行く小
野鳥　鴨突の行く新長き　日行く小
墨　故なくふ突ふ行置　蟬ゆ
蕪　行りろと　鶏引ち　舎咕
川魚　秋の〜宜物川〜の少あく小

公
公

牛馬四足是謂天落馬首穿牛尾
是謂人

一方ハ梅咲　桃の株　越入
藏角於壁藏山澤謂之固然而
夜半有〜力者負之而走
かふ中〜〜ふ師走乃市ふうるさ山
後聖寡知大盗乃止
七夕よ物ふ沢ときもなきなし
ちく〜〜ふ踊ときものハ花ふ
鶏沢乃雪ふかくもて　ふ邪
ゆく〜きふ時ふ　時ふ考ふ
ふ〜〜〜〜〜人の見ふ　前ふ

鉈者天　桂夕
純者尋　市山
藤房　一井
師直　長虫

一体　いろ〳〵はかさちかう〻月の雲　湍水
法華　峰霧不はらうひもなきうつ〻ふ　嵐渓
山岩　杉〻ふかハ春よ藏う〻　岩の角　湍水
海石　苔〻う〻し　孫うハ古もかうけう　仝

名所

八重うすき〻奥まで見さる法田ふ　杜国
春〻奥ゑ嶺や式部の大江山　荷兮
むら雨乃松ハ春う　紙衣　芭蕉
紫一把うつて見るいなびふ　湍水
嶺藤生て八月ハ見るのわゆ〻ぬ花盛　荷兮

張琵琶明月　雪ふる鬼殿さひき　やうひ　舍帖

閑さ乃そて宗長も感しうき〻さう小　宗長
笑ひ密ふ閑とい山ハ乃山寺の最つ
咲〻うを見ていて　ゆふ〻や
竹方世出て春ハ春、さ　文衣　杜国
まうつや内外もなき志賀の里　重五
ふ〻ハ雨し加〻ま石のめや秋田の稲　芭蕉
湖乃　ふ生　きう〻けう　ふ〻ハ雨　去来
牛もなう　鳥羽乃はうりのふ〻る　一髪
角田川ふて
いきの不ま　淡海の新食ま　負室
みう〻ハ　ハ小ふ　秋さう　貝ふ書　彼笠
いさ〻ふ　牛さ〻ふ　芭蕉

夕月や杖ホ[illegible]なる角田川　越人

九月十三夜

唐士に富士のくもりけふの月　素堂

鴨突の[illegible]ハ昔ホ[illegible]　湖及

武蔵やいく折ふしぞ侍雨　湖支

池を面根うつ月もしんむしぐれ　舟泉

かり稲やとぶ人のいせて初しぐれ　尚白

むさし野とぶ[illegible]ホ　洗悪

光ゆくしらと生海苔て煙や小の奥　俊似

みくされの猪轆轤やをりくおく　笑

雲ホ富士茶ホ[illegible]ひろくかくれ　帯水

ようの宮ホ大中ホ夕　北才

[illegible]ホ[illegible]　芭蕉

[illegible]の月や[illegible]の[illegible]　如行

旅

西[illegible]ホ[illegible]ホ[illegible]ホ[illegible]ホ[illegible]　芭蕉

大和出平尾村出て

[illegible]の[illegible]ホ[illegible]ホ[illegible]　公

横雲里を眠て通りけり　夕帆

月の入や舟を見て[illegible]　一髪

のとけしや溪の[illegible]　荷兮

ひとり[illegible]ホ[illegible]　芭蕉

[illegible]人の餞別ホ

[illegible]

除風　冬松　昌碧　松芽　仝下

[illegible]

汐雪　一井　枇水　嵐隙

荷兮

文級乃　月　二人な見ふとをう

[illegible]

枇水　芭蕉　路通

[illegible]

荷兮　京　ちね　玄察　一井

文鱗

草枕犬も共とつれ立つの一笑　芭蕉
結ぶれぬ刀うとうとや　村雨くれ　ツシマ常秀
いく蕨を　芭蕉よ　ぬかるなよ
夢ふ見て　羽織ハ御の八ツ時　荷兮　牡水
甚角ふ　ちらちら時
ひなさくらの　ひらひらさくみの宿　荷兮
天龍てさくれ　雪ハ　暮　杓人
むら鹿の　一ふ見ぬ　ちらちらふ　今下
里人の　さらゆ　ちらの雪　宗因
城人と　高田の　狩ふて　芭蕉
雪ふれと　二人　旅寐　さこのりき

旅寐して見しや浮世の煤拂ひ　公

述懐

家居を捨て出る時

きぬ〻時ハ水もさそなそ　路通
ふ成物ノ守りて　世を捨ノ　牡宣
金石乃国出　蛙入る　浮世ふ　落梧
ゝ野ふて
世ふ出ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　杜国
きて見て　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　梅舌
ゝ野ふて
父母ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　芭蕉
ひ出ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　荷兮

さらふ入湯をのしらう一盤　合歓
一太十九　ゆすしもひのあるを後居ハ　杏雨
肩衣ハ綿ゆゑ　ゆてゆる色の文　杉風
似たりや　白髪ようやく麻生愛　亀羽

九月十日　素堂の亭ゆゑ
わくれ家やよりめ菜の中ふ秋の菊　嵐雪
うるゝ家と金ゝきくの　恒根ハ　暁梧
人乃　庵をとろれて
されハとそ　ゆるまとたきの弟の霜　芭蕉
四里九　人ふのゆつ八ハ
ちゝふ一の夢ふやふるふのふ　杜国
錄金建長ちふまゆて

晩景うゝ　身ハつゝあれけるゝ　越人
ゆゝ人のゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ハ流浮　ゝ　ゝ
むハ　ゝ　ゝ　荷兮
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
なゝもの　曙南や冷ゝ　嵐雪
椿の　ふ　ゝ　去来
月や遠ゝ　ゝ　ゝ　西武
ふるゝ　ゝ　ゝ　芭蕉
ゝ　ゝ　ゝ　除風
ゝ　ゝ　ゝ　越人

[illegible]

春[illegible]る人の[illegible]　一有春　除川

きぬ[illegible]や余[illegible]くけよりも明[illegible]　長虹

[illegible]屋出て[illegible]　文闌

[illegible]の月[illegible]　冬文

[illegible]　心棘

[illegible]　長虹

[illegible]　尚白

[illegible]　持分

[illegible]

[illegible]　越人

[illegible]　俊似

[illegible]　舟泉

[illegible]　尚蕓

[illegible]　松坊

[illegible]　冬松

[illegible]　昌碧

[illegible]

[illegible]　守武

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

南亭空さゝあ明のかゝ寺　坂　元順
松坂の宿駅とゆふ人の身まろ
るゝ水いとやりける

攝ノ　出ノ　須見ぬもろこし　荷分

いとゝこの追ふ春に
ふのうゝ人ホうのく消る帰ゝな　京　夫来
あるゝ人ホうゝ分わるる時中雲ゝ
いのゝ秋ノ　小ゝと見ゆる　ちきゝ小ゝ
世ゝゝ春のゝまゝうけるゝ　荷分
ゝ月の朔ノ一茶と思ふ人ノ　野水

公下

辞世

[illegible]ゝ　焼茄子一ツ　生ユ子

[illegible]ゝ　落語

[illegible]ゝ　一原宗ゆて

[illegible]ゝ　一躍り

[illegible]ゝ　約吉

[illegible]ゝ　妻ノ　逃ゝ春ノ

[illegible]ゝ　自悦

[illegible]ゝ　去来

[illegible]ゝ　ノ　ノ　ノ

[illegible]ゝ　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちる花のなごりをしむ人しなくば　越人

女房の強国にて覚えを異られぬ
時さ所あり社の義俳乃亦のさうて
寺の八畳敷墨うむ寺のしたえ

ふる〳〵と降る涙やあらしの色　俊岱

親寺尾上の桜咲るみり　井

古寺やつくさぬとねの草葉

八島ゆき

海士の家貧しきうむ塩生ふ　千閑

咲ぬよけうの雪人なき寺の紅葉　一井

夏山や雨法華の行脚　蕪葉

大和良あて

俳仏乃目ふ生れ変山麻のこの仏

俳俳の手演　俳一　ちりぬれ　芭蕉

ゑ丹あて　尚白

腰のひの山ふき　神義ぐうの内山仏　一雪

無示求て　庵　一日の　清ある仏　一笑

十如是

松のふくのなりて海る志ろ仏　荷分

即身即仏

夏陰の屋敷八かんの　俳仏　愚益

ひやひや　俳の　宿る　文化　嵐雪

おくらくや門のあるを　荷分

打なけの火をとるものの　扱九

石屋寺に於て鬼の相のうれひ　文里
魂なつの舟　河をこぎ出るうら　亀洞
たなびきのうらにあくる秋風に　卜枝
松待乃　柱見さてん　雪の夜　汐雪

平等院一切

松待よあの人さそふ山けり　俊似
稲妻に大仏　おがむ秋中に　落子
塩越に引乃　曙くれ行に　卜枝
ある人四時乃　糸筋のうつるの窓と
翁を不会不図　千鳥を感して　秋も
厚くふるに　仏ゆるぶへぬるそ　荷兮

ある寺の奥乃ふ
慈悲　乃生寺乃　敬ふくうて　其角
すみ切て坊ゝ　行ゝ月の舟　一井
休乃　ふふ本綿をうる什麻ふ　卜枝
人のゝをふあくて出んとうるふ
まゝまくれるまゝ
夜いろて又ゝ　ゝゝ　一時雨　蕉洋
鍋食の安国論をあて
たゝくゝの　古寺の庭や　直ふれゝん　越人
曙や　仏盃くの　雪見　とし　荷兮

如雲去以ゆく
如樹老以衣
如商人以走
如子以母
如夜以舟
如病以医
如時以梳

雪ふれや町〻二王乃住院　俊似
ほく〻と盛てあたゝかなせ　一井
名所詠とるく人乃さらりや涼さた　文潤
手鏡のうつるもうせて年の雲　其角

薬王寺七句

まつ〻ゐの梅乃咲さろ〻ゝみ　湖及
雪乃日や　海棠枝ゆまの家
双六のあのてよいあひつゝ
竹〻そ〻かけいろ〻さけ
月の須濱乃梅乃さりゆ
ろ〻くゝゝきさ
社乃春や松ひゆる松起さる

神祇

春宮や雪まろかる柳哉　汐雪

二月十五日社参

きさらぎや廿四日の月乃梅　荷兮
ちり〻と梅ちる庭ゝ　仝
学もあひのそまよ　神ゝ梅　亀洞
上ゝ雲さらぬやうゝ神の笑　昌碧
梅の咲まろかなりけり　むらの中　汐雪
行ろふ桜ろ〻宵　梅の花　秋人
貴〻なりゝゆるゝ神の梅　舟泉
月代も志しるかるゝ　梅ゝ宮　雨村
門ひろ〻て梅ゝ瑞籠おろ〻ろ　重五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千代の[illegible]

先祖へ　梅を[illegible]のみてゐる人や[illegible]　芭蕉

大井川[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]　左柳

[illegible]　里東

[illegible]　建舟

曠野集貞享

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三人ばかり　船水

[illegible]　荷分

[illegible]　越人

門の石日の[illegible]　閑の[illegible]　水

風の月利を　初秋　[illegible]　分

武士の[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　分

[illegible]　草の[illegible]

[illegible]　人

[illegible]　水

千曲川　北山のてら　分

[illegible]　人

[illegible]　分

[illegible]　水

[illegible]　人

[illegible]　分

[illegible]　水

[illegible]　人

[illegible]　分

[illegible]　水

[illegible]　人

[illegible]　分

[illegible]　水

[illegible]

月の[illegible]

松[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつくともなくてかさみ拾遺
湯殿まのつのあむさ
涼やと遊ぶまそる川舟
みてうまんれや　うる　月
秋風や　女車の　髪おとし　治雪
袖で寄せ　つけき　笠の内　舟泉
暁ノ　ものさんらぬ行のまま　昌碧
八重　霧八　さそふ　なるく　舟水
月の　そやけ　八　行せん　曙ホ　舟泉
ひやきう　出ものふ　なく　亀汀
向まで　寄やる　うくく　小夜中　荷子
塔　鈴　人の　恋　ものく　昌碧

妃所　ホて　二千貫　の　物　減　貴　ス　ケ　治雪
ふ　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　舟泉
ら　く　ま　ホ　物　の　ら　つ　け　て　ホ　脇　ら　水
門　ま　ら　ら　ら　ら　ら　於　る　ま　ま　荷子
ら　ま　て　ま　て　ま　ま　町　の　殺　原　亀汀
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　治雪
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　昌碧
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　水
や　し　し　秋　の　や　く　な　く　な　る　舟泉
つ　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く　亀汀
み　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　荷子
夏　の　日　や　日　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　昌碧
梅　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　

人なとゝ不服[illegible]　荷芳
つゆとゝ不[illegible]る　[illegible]　柳水

哀しき[illegible]さけり　舟泉
柳ちるまゝの　如　杏芳
又霞[illegible]　冬文
[illegible]　荷分
秋草[illegible]　松芳
引ひきあ[illegible]る　勝　舟泉
けふも又[illegible]　荷分
[illegible]　冬文
火鼠の皮[illegible]　舟泉

下ノ七十五

涙見せ[illegible]　松芳
[illegible]　冬文
河[illegible]　荷分
[illegible]　松芳
[illegible]　舟泉
[illegible]　荷分
月の[illegible]　冬文
[illegible]　舟泉
[illegible]　松芳
[illegible]　冬文
十月の[illegible]　荷分
山里[illegible]　松芳

長持りふて　かくるやく　こうむ
さふ〳〵なかるまを　ぬる月の　和
るのことをれハ　てるりいあく
きひ〳〵さい　ゑ　井ち　ぬるの　洒
越ふまへて　ぬるまを　ひよつ　つるの
ぬる〳〵や　ぬるまる　身のうへ　まく
曉ふる〳〵　松　品　よい
けしの　花　ふ　ちる　ふる
味噌　する　まる　乃　清　さ　ふ　ろ
萬　賢　乃　門　さ　ま　ち　ふ　彩　あ　ろ
次　ふ　〳〵　ふ　ハ　の　さ　〳〵　ふ　ハ　か　る
春　乃　和　赤　見　〳〵　ふ　ち　ハ　そ　ハ　の　ち　〳〵　紀

舟泉
荷分
冬文
舟泉
松芳
冬文
荷分
松芳
舟泉
荷分
冬文
舟泉

顔見ふ　ゆ　ち　る　花乃　猪之
さ　さ　ま　ま　や　梁　布　を　ぬ　ふ　ま　ま　ま　ま　ま
ち　ふ　ち　ゆ　ち　る　き　山　ハ　乃　山　ふ

ぬ　〳〵　き　ハ　待　ぬ　ち　る　の　わ　ち　ハ　乃
雨　の　ま　ま　の　ま　ま　る　の　ま　ま　る　戸　か　ハ　ハ
ハ　ま　て　〳〵　車　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
な　の　ま　ま　ま　ま　る　ま　人　乃　ま　ま　る　ハ
月　乃　秋　猪　の　ま　ま　ふ　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　ま　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
初　ま　ま　〳〵　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
葉　細　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

荷分
松芳
冬文
荷分
山水
仝
荷分
仝
池水
水分

土肥さ久しくふるきよぶく　仝
下刈ふるしたる　柳そのうき　水
通路をつのさうに高けて迷うろ　仝
六位ふあるしに　夢ろうくまき　分
代系ろくやもろくと清西ひて　仝
淺一貫よ　鍬　一筆　水
月の物学ひやぎきふ　仝
花笑けりく　おもめ　分
天仙藝ふ今　合ひ　仝
めけうねうけよ　賣絵の中　水
ろく人物ろうて　仝
ゆ見うしき　泊りてやる　仝

物のもし　肥臭　伊勢けの八甲安　水
秋の物ふ　昔　浮猫　陽　分
ちそくさくもよりれふけしけの魂　水
八月の月光　すきやいるまて　分
山乃露ふ　杉ろ　桐ろの　水
きろきろ　ろ　分
置き見ろ　復ろけろ　門　仝
方載ろ行ふ　潜ろ　の物ろ　水
ろろ　ゆ味ろ　本位の草枕　分
ろろ　ろのよきふ　ゆ　水
忍ろ　ろ　ゆ　仝
庵をつけて　伊居ろ　ぬ　分

三方の数はあうをいふ　仝
竹まの草鞋を　水
隠くや　小　十を大原　桜風の花　仝
人おひよりわ　すると乃　川四郎　半

月さしのわく　汗しきハ思ハ　緊ハ　ハ
おりろさふ　柄をさしとふ　ふよき　周や
心鑑は所乃　句をすの　ゆさふ　文乃
秋乃　疲ゆ　ふ　ふ　千俵　ま　ま　ふ　つ　ま
月ふ　柄をさし　ま　ふ　ふ　よ　は　門八
四の　ま　ま　ま　ま　ま　百の　秋　ま　秋　城入
ま　ま　ま　ま　ま　

[illegible] 文字のゆかしさ　下
[illegible] 涙落ち　全
[illegible] 風　八
[illegible] 浦のいとゑの海千鳥　全
内へ　なをかいる　犬　下
[illegible] 花比の[illegible]　全
[illegible] 雨のちり　八
[illegible] 蒲団　全
[illegible] みるちりひり　下
灯窓の[illegible]　押くし　全
[illegible] 風　人
[illegible]　全

[illegible]　下
[illegible]　全
人宏　清[illegible]　八
[illegible]　下
[illegible]　人
[illegible]　下
[illegible]　人
[illegible]　下
[illegible]　人

越人

[illegible]ふ[illegible]の月　芭蕉
[illegible]　越人
[illegible]　仝
[illegible]　芭蕉
[illegible]　仝
[illegible]　越人
[illegible]　芭蕉
[illegible]　越人
[illegible]　芭蕉
[illegible]　越人
[illegible]　芭蕉

[illegible]　越人
[illegible]　芭蕉
[illegible]　越人
[illegible]　仝
[illegible]　芭蕉
[illegible]　仝
[illegible]　越人
[illegible]　芭蕉
[illegible]　人
[illegible]　芭蕉
[illegible]　人
[illegible]　芭蕉

頃程のさゝけ宵の人に忘れて　其人
いやもゝくに姉と妹と父なるぬ　入
あの西へ西へ流つゝ心そ　其
行月のうしろの空ゆ消さるゝ　人
祈も幸く敏さいの祈　其
秋の四さらに世知ハうの長ひきそ　入
さいく少のイトうえ　岡本　其
いつもりくに尾底の　木葉　人
池をきるきるうる雲痛そ　其
花乃須　岸長寿もうやゆ　入
雪りを吟めて　理きんち　其

角仲あらへて本人のあらしかるに
落ひらそ　花の名は　支や天保ノ　其角
ゝ　ぬさの　月見　雲なりけり　我人
菊花の　雪ふ　雪を　引つて　金
陰そりまゝ　景ハあふなる　角
浮つ　其て　猫に　なる　文衣　金
蓮　きりつ　人　ゆつきみの　祈　人
暇ゝゝる　涙　ものうゆとまつて　金
解ハ　景ふ　ゝ　青ゝ　きく　ゆる　角
空　悔つ　数　魂の　水の　松ちゝ　金
あゝ　なつ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　人
いゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　金

角　百けこうをもてあつらへさせの
仝　海鹿き耳ふつまくもるさ史と
人　角をも　ぬ　月　乃江の舟
仝　世ゑいろの富士ら浅芙ふ秋の雪
角　ゑとさ〜夕　草の　一縄
仝　漫　ぬ　ぎうれ〜き神ふ世こる
人　うき世ふつけて紀如　人ハ猴
仝　西ま毋　赤ま　翔も　月う八見
角　うや　鶏　形　の　吉のこ〜ろき
仝　いちゑうや　戸ふ　ゑ　ゑる　衣ま
人　恵乃　親　も　寿　狂　ゑ　ま　ん
仝　や　ゑ　ひ　宿　の　わ　ふ　れ　ふ　ゑ

角　朱ほ〜ま人　師を　な　う　け　う
仝　夕　移　宿　乃　長　ふ　猿　の　こ
人　ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
仝　宛　ま　ふ　塵　う　ち　ま　し　い　ま　我
人　ひ　ま　ま　う　て　伊　勢　の　八　鶴
仝　満　月　ふ　断　さ　れ　ま　ま　ま　ま
角　金　着　ま　師　八　秋　の　ひ　き　り　ま
仝　夕　ま　ま　れ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
人　ま　ま　ひ　る　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
仝　ま　ま　ふ　ま　金　の　ま　ま　ま　ま　ま
角　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
仝　の　香　ふ　わ　き　ま　ま　ま　ま　ま　ま

むら雲　へき嶺続乃　まき

我もう　彩浦八人の雫やそそ　嵐雪
秋うそ寒し　いかも湯腰　越人
月の宿　書成りちる中ふねて　仝
外面案の　草とけふ　仝
くれわひて　れふらは里のそ　仝
門紙くるこ八　城下のみち　仝
疱瘡白の　遠重ふく　蕎の臭　仝
喝ふ八　ふ　草　ゆ　仝
なるこ見る　ゆ　れ　の　雪
後ちひよ人　いふ　ふ　仝

七夕　ふ　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　人
行燈　ふ　て　ふ　て　ゆ　ま　ま　ま　嵐雪
名物を　ふ　て　ふ　て　ゆ　ま　ま　ま　越人
明月　月　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　仝
ちく　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　雪
つまの　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　人
ちく　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　越
ちふこ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　人

初雪や　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　野水
月のみ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　落梧
山川や　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　仝

戦を去まうふ見るへうけう
ちのしさ女 押合月に草ゆ
ゆふこぐくし 長 樋の荻
川越の歩ふきまき乃 秋の雨
ねあとのうくる 頼乃きくもき
つろせこをつ かくかを 塚の下
すくきまるふ 頂乃 うきこへ
更る夜の深 湯ハ ゆりとあ 脇て
あそくて 起を 出 乃 俤
雲の歩 ゆちる ゆのうをたう
旅さるうちの 公雪 羅さ
京ゆさ ゆるもの さゆさ 一文ふ

水
仝
梧
水
梧
水
梧
水
梧
水
梧
水
梧

十戸ハ ゆるゆ 月のあ ゆろけ
耳や 歯や ゆ ゆ ゆ ゆ
昌ゆ ゆさ せふけふの 初午
ゆつゆふも 雪 ゆ 此 ふ
と伏 行て 人 ゆ ゆ
くふゆくと くさひ ゆ 車
桃 灯 て あと くき くれ
行 ゆを 注 けん 撃を 接 ふい
ゆゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
かゆる 府 ゆを 結 ゆ ゆく
雨 ゆて 歴 ゆ ゆ ゆ ゆ

梧
水
仝
水
梧
水
梧
水
梧
水
梧
水
梧

柳ちるを　例乃　越　乃

初かつく月こそさられなする　水

寂しき秋を女夫居りけり　仝

占をよすゑ水矢きるうゝやゝ　梧

黍りそ　水のあしへの泡　仝

物こゝの　千奥備るうゝ頃水　梧

清ゝ　秋を先へ見そゝ　仝

春雨　くゝふり清ゝ　水

初ふり　ゝ人と雲晴ゝ　梧

一里り　炭売ハ　一井

うきひの　先の　龍沢る　嵐潭

きたくさや　西本を　酒ふ　人　胡及

月夜　ゝ　早き　塘夏　長虹

夕月の入きく　嵐潭

ゝ　秋　一井

里沢く　踊　二三日　長虹

宮ゝ　妻ふ　ゝ　胡及

岡ゝ　涙ふ　ゝ　一井

苔　ゝ　切ゝ　文　嵐潭

ゝ　藤紅　湯　胡及

宮ゝ　秋宮の　越の　長虹

なゝ　ゝ　嵐潭

始ゝ　みる　女中　一井

浦風ふ脛はまくらを月深し
みるもかなしき紀伊の国美屋
若者のきし夫射てかくるる影の法
藤くらふ香ふ幸さくりけり
たるのくれ行くきくを脳くん
寒さの行の裾ふ蔦ふ
たるのまる間もさへ鶴代
望愛かくるる姫を抱りう
木枯きくふあるる松の枝
梅ふくる　人々　乃　真
公事ふなりて炎の道もなき
きくらも世ふ　ぼい霖入月

長虹　胡及　一井　嵐渾　胡及　長虹　一井　嵐渾　長虹　胡及

寒さ　陳子の法のうきを紀
あまきくるもそふ赤むれ萩の系
ひろ枝入りの宮のたるけふ
衣引ふ　人の　豆ち
毒なりと瓜一きれも冷紙
庄風ちそ　白雨
板屋まて　鳴新なき度の内
たれのぬ月うる　寒れ
ぬくくと　日豆の知夏ぬ花雲
尾ちさ仕ふ　ふ形つくく
元禄壬申冬　許六亭奥行
けのそうくも年くれ神くま

胡及　長虹　嵐渾　一井　長虹　胡及　一井　嵐渾　長虹　胡及

[illegible]八仕舞[illegible]る毒のあ[illegible]出
[illegible]実成[illegible]ん小粉の冷味して　許六
汁の[illegible]ら　秋の風[illegible]　洒堂
宮の月　[illegible]入れて　古平　盛水
先[illegible]変す[illegible]る故屋の約束　嵐蘭
[illegible]ゥ[illegible]の[illegible]中に[illegible]て　筆
焼鳥[illegible]る　少[illegible]　翁
粉つむさ[illegible]の[illegible]　六
[illegible]磯の[illegible]る[illegible]の八に　堂
[illegible]八[illegible]人もう[illegible]　蒙
[illegible]追の[illegible]　[illegible]の[illegible]　水
[illegible]八[illegible]る秋の[illegible]遠一　翁

小[illegible]　荷の風[illegible]
八月[illegible]面[illegible]　小後[illegible]　六
焼[illegible]の[illegible]　堂
[illegible]白[illegible]の[illegible]　蒙
[illegible]も[illegible]の卵　[illegible]ふ　水
[illegible]　[illegible]　翁
[illegible]　六
[illegible]　堂
[illegible]　蒙
[illegible]　水
灯の影[illegible]　翁
[illegible]　六
[illegible]　堂

増補
校合　中村屋源八
浅草福井町壹町目　山崎屋清七
天保十五年
辰ノ孟春　日本橋通二町目　三河屋甚助